

令和２年度 第１回豊田市男女共同参画推進懇話会 会議録

1 第３次とよた男女共同参画プラン「令和元年度事業評価及び５年間の総評価」（資料 1-1）に関する意見・提案

【マーク】 ○…肯定的な意見 ●…要改善の意見 ☆…事業の提案

○考え方（理想）と行動（現実）の差をなくすという表現は、具体的でわかりやすい。

○第３次プランから第４次プランへの展開について、順当な発展を感じた。第４次プランでは家庭・地域における取組に重点を置かれており、今後のますますの発展が楽しみである。

○分かりやすくまとめてある。ライフステージ４の男性料理講座には是非参加したい。

●企業や組織における制度や取組は着実に進んでいると確認できたが、プライベートな環境での意識の高まりは今一步であると感じる。

●第４次プランにおいては「女性割合３割以上」という目標を、努力義務ではなく必須条件にするなどドラスティックな改革実現の方法を見出し、実践してほしい。

☆誰もが希望や夢を抱くことができる「基本理念（誰もが自分らしく楽しく暮らせる社会）」を力強くＰＲし、一つひとつの事業を実践し続けてほしい。

☆第４次プランは、講座等の実績確認において参加者人数を数値目標にしてはどうか。

☆コロナ禍の影響で就業率はさらに厳しい状況が続くと予想される。それにより子どもへの悪影響が増え、一人親家庭の子どもが不登校や問題を起こしていることも多いため、就業・収入の安定をより支援することはできないか。

☆自分の活動を通して、シングルマザーやシングルファーザーの方と接することが多いが、子どもの学校行事や通院、親の介護など、一人で背負って生活をしている。それらに対する行政支援がなければ、安心して就労することができないのではないか。

☆イベント等にオンラインで参加できるようにしてほしい。

2 第3次とよた男女共同参画プラン令和元年度進捗状況調書（資料1-3）に関する意見・提案

- ① 若者への啓発事業で、SNS を活用した発言・意見交換の場を設け、当事者である若い世代の「生の声」を拾うことが必要だと思う。
- ② 女性の就業支援事業で、「実際に就業した人」や「起業した人」等の事例を積極的に広報して、多くの人の目に触れるようにしてはどうか。また時代に先んじた取組の発表をするのはどうか。
- ③ 男性中心型労働慣行の見直しとライフワークバランスの推進事業では、コロナ禍の影響で、テレワークが飛躍的に拡大され、在宅勤務も予想以上に増加したことによるライフスタイルの変化は、今後も私たちの生活を大きく転換させていくと思われる。この状況による在宅ワークなどを検証し、今後の事業展開に生かしてほしい。
- ④ 様々な情報を発信するマスメディアの組織にこそ、若者への啓発、女性就業支援、男性中心型労働慣行等の見直しをする視点の必要性を感じる。
- ⑤ 男女共同参画を進めるためには意識の醸成が有益であり、そのために小中学校を対象とした事業に期待する。
- ⑥ ジェンダーの問題は若者に限定せず、幅広く啓発していかなければならない。
- ⑦ 重点取組の実績ポイントが下がった項目には、表の「5 年間での問題点」として分析を明記するとよい。
- ⑧ 取組が進んでいる企業へ、講座の参加を呼びかけ、企業及び個人としてのモデルとなってもらよう働きかけるのはどうか。
- ⑨ ジェンダーフリーを子どもたちに浸透させていくには、教員の研修、学校教育への取組に力を入れていくとよい。
- ⑩ 就労している人や企業向けのシンポジウムや講演会は「イキイキ事業者表彰」につながり効果を上げているが、就業を斡旋するためのセミナーは参加しても実際に就業することが難しいことがわかる。就業のための窓口や機会は必要だと思うので、地道に続けて成功例をもっと広めるとよい。
- ⑪ 男女共同参画の考えを持ったファシリテーターのもとで、効果的に家族で話し合えるセミナーは有意義だと思う。理想を共有できずに仕事、家事、育児で疲れている夫婦にとって、「休日に育児を一休みして、幸せな理想を夫婦でゆっくり話せる場」等は魅力を感じると思う。

- ⑫ 女性の起業支援事業は、とても有益な取組だと思うので、継続してほしい。
- ⑬ 男女共同参画の推進のため、育児・家事・介護・働き方・コミュニケーション等での具体的なスキルアップセミナーの提供が効果的だと考える。
- ⑭ 「中学生とあかちゃんのふれあい体験」は、コロナの不安もある。事業が実施できない場合等は、育児マンガを活用し、子どもや男性が共感しやすいものを紹介するとよい。
- ⑮ 多くの事業が適切に管理されており、その進捗も概ね順調であることがわかり安心感を持てた。

3 その他自由意見

- ① 第4次プランはとても読みやすく、わかりやすい編集・構成になっている。ぜひ多くの人に見てほしい。
- ② 第4次プランの基本理念は、まさに今の時代に求められる理念だと感じる。
- ③ 第4次プランの指標や第3次プランまでの実績等を確認し、課題の多い現実だと実感した。
- ④ 「ダイバーシティ」「マイノリティ」「LGBT」などわかりにくい言葉や浸透していない言葉が多く、理解しにくい点がある。教育現場でもこういった言葉について子どもたちにわかりやすく伝えるようにしたい。
- ⑤ 行政活動を身近に感じる機会はあまりないので、幅広い周知活動により、多くの市民に興味を持ってもらおうとよい。
- ⑥ 介護離職を防ぐための取組について、コロナの影響があるかもしれない今後の介護事情について学ぶ機会があるとよい。
- ⑦ 啓発活動に「笑劇派」の劇を活用するのはどうか。難しい内容でもお笑いが入るとすんなり受け入れられると思う。

4 令和2年度に研究予定である「LGBTの方への施策立案の検討」に関する意見・提案。

- ① 積極的に進めてほしい。企画の段階から当事者の意見や考え方を優先的に採用して展開していただきたい。
- ② LGBTを公表している人の周りには、固定観念に拘りすぎている人たちが、困惑している状況だと思う。LGBTの研究にはぜひ当事者の方々の参画を希望する。
- ③ 設備を整備する取組に対し、助成金として経済的支援を行うのはどうか。
- ④ 学生服でスラックスを選択できるような取組を検討するとよい。
- ⑤ LGBT専門相談窓口をつくるべきである。
- ⑥ 学校でもLGBTへの取組が進んでいるが、教員が社会の流れに追いついていない現状もあるため、教員への研修の必要性を感じる。
- ⑦ 安心感のある雰囲気づくりが大事だと思う。「こうありたい自分」について自発的に語ることができる風土の醸成が必要である。
- ⑧ 相談しやすい窓口を設置し、宣伝カードの配布や、匿名での相談対応、広報とよたの周知をおこなうとよい。
- ⑨ LGBT当事者や家族の交流会、勉強会、一般の方も参加可能な講演会の開催、LGBT支援団体の紹介ができるとよい。